



平成25年11月18日
卓話 『日加関係』
駐日カナダ大使
マッケンジー・クラグストン 様



皆さまこんにちは。本日、お話しする機会をいただき、大変光栄に思っております。

9月23、24日に安倍首相がオタワを訪問し、カナダのハーパー首相と面会しました。会談は大変友好的で、ここで両国はいつくかの重要な合意に達することができました。両首相は国際社会が直面する多くの課題について共通認識を持っていることを確認し、更に連携を強めるよう関係者に指示しました。そのいくつかをご紹介します。

最初は貿易についてです。カナダと日本は不可欠で相互利益的な関係にあります。カナダには330の日本企業、日本には90のカナダ企業があります。貿易高は年々増え、2012年3月にはEPA（経済連携協定）の交渉が始まりました。EPAは両国に国内総生産の大幅な増加と貿易額の増加をもたらすと見込まれています。

農産物と海産物では、今日、カナダはアメリカ、中国に次ぐ日本の3番目に重要な食糧輸入源です。逆にカナダは日本にとって11番目に大きな農業と海産物の輸出先です。また鉱業とエネルギーの部門では、日本はより低価格のエネルギーと鉱物の安定的な供給源確保のため、カナダを含む北米のシェールガスと石油への移行を進めています。

両首相は科学技術の部門でも熱心な協力を望んでいます。二国間の研究開発協力は、特にナノテクノロジー、バイオテクノロジー、クリーンエネルギーなどの分野で拡大しています。

今回の安倍首相の訪問での最も重要な声明は、平和と安全保障協力に関するものでした。1年半に及ぶ交渉の末、両国は物品役務相互

提供協定で合意しました。

これはカナダ国防軍と日本の自衛隊の平和支援任務、人道的支援活動などで物資やサービスの交換を認めるもので、これによりアフガニスタンの安全保障プロジェクト、アデン湾での海賊対策などで両国の安全協力が確立されるでしょう。

文化と人材の交流にも触れておきたいと思えます。両国の関係は貿易や政治的な結びつきを超えて両国民の友情によって支えられてきました。両国の間には75に及ぶ姉妹都市関係などの草の根プログラムがあり、加えてJETプログラムによって現在約500名のカナダ人が日本に滞在し、日本からも毎年5000人を超える若者がワーキングホリデー制度を利用してカナダへやってきます。両国の人材交流の結びつきは特に東日本大震災で明らかになりました。今年始め、私は大使として初めて東北を訪れ、そこで東北の復興プロジェクト、450万カナドルによる再建への取り組みを間近で確かめることができました。これはカナダ政府とブリティッシュコロンビア州との協力で公共施設の建物を蘇らせるもので、カナダの材木などが使われています。

来年はカナダと日本の外交関係樹立85周年です。この結びつきを発展させることで、私は皆さんにカナダに興味を持っていただき、両国がより親密になるようご協力いただけることを期待しています。

ありがとうございました。

